

ハツ場あしたの会 総会記念集会
2024年3月3日

熊本豪雨災害をめぐる市民調査が示唆する、 気候危機時代の川との共生の知恵

森 明香 (MORI Sayaka)

高知大学

／清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会

／ハツ場あしたの会運営委員

2020年8月13日の熊本日日新聞に、一つの記事が掲載された

で65人が死亡明となった。人吉総局長吉田が災害現場を訪れて取材。紙面を通して住民の声や被災地の現状を読者に伝えている。その取材の中で、不思議に思うことがある。それは、被災者たちが異口同音に「球磨川は悪くない」と球磨川をかばう言葉を口にすることだ。

球磨川から人吉市街地に水があふれ出す様子を目の当たりにした時、そして土砂降りの雨の中、水に没した球磨村渡地区を見た時、正直私は「球磨川は恐ろしい」と思った。でも、取材で話を聞いた人たちは違った。

知人が球磨川の濁流にのまれ、亡くなったという女性は、その死を悲しみながらも「球磨川のことをどうしても恨めない。憎いと思えないです」と声を押し殺した。店舗も自宅も濁流と汚泥でめちゃくちゃにされた男性も「水害は怖い、球磨川は怖くないし、球磨川は悪くない。球磨川への思いと水害は全く別。今回は俺たちが油断しとったっただい」と苦笑交じりに話した。

球磨川への思い 受け止めたい 人吉総局長・吉田

「雑な気持ちで、…と断った上で、一歩は昔から流域の住民に多くのものを与え続けています。地域や人々の生活を支えてくれた存在であり、時に癒やしの場でもあるんです。球磨川が悪者のように言われるのはつらい」と訴えた。

地震や台風、そして今回のような豪雨…。近年、全国各地で大災害が相次いでいる。災害の状況は似ていても、その場所のできる被災者の思いはさまざま。それぞれの被災地に、その土地の自然と向き合い、生きてきた人々の思いや暮らしがある。災害報道でないがしろにできない大切なものを今回、「球磨川」が教えてくれた気がしている。

発生から1カ月がすぎ、各メディアでも豪雨関連の報道が減少傾向にある。「被災者に寄り添う」。災害が起こると必ず耳にする言葉だ。記事を書き続けることが寄り添い方の一つかもしれない。ただ、その土地の人たちの身近な自然に対する敬意や歴史にも心を配りつつ記事を書くことが寄り添うためには大切だと感じている。まずは、地元の方たちの球磨川への思いをしっかりとして受け止めたい。





相良村・川辺川

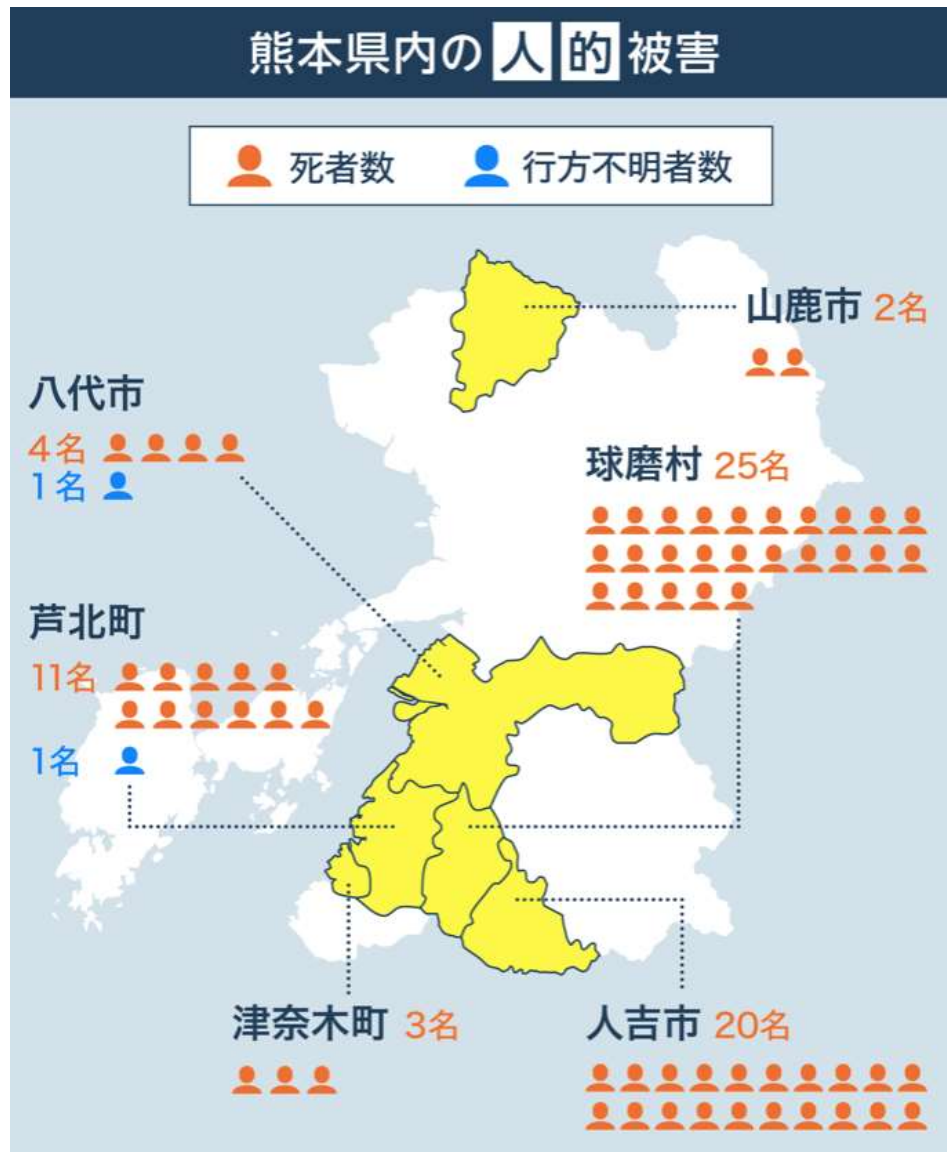


坂本駅前

表2 支流の被害状況(抜粋)

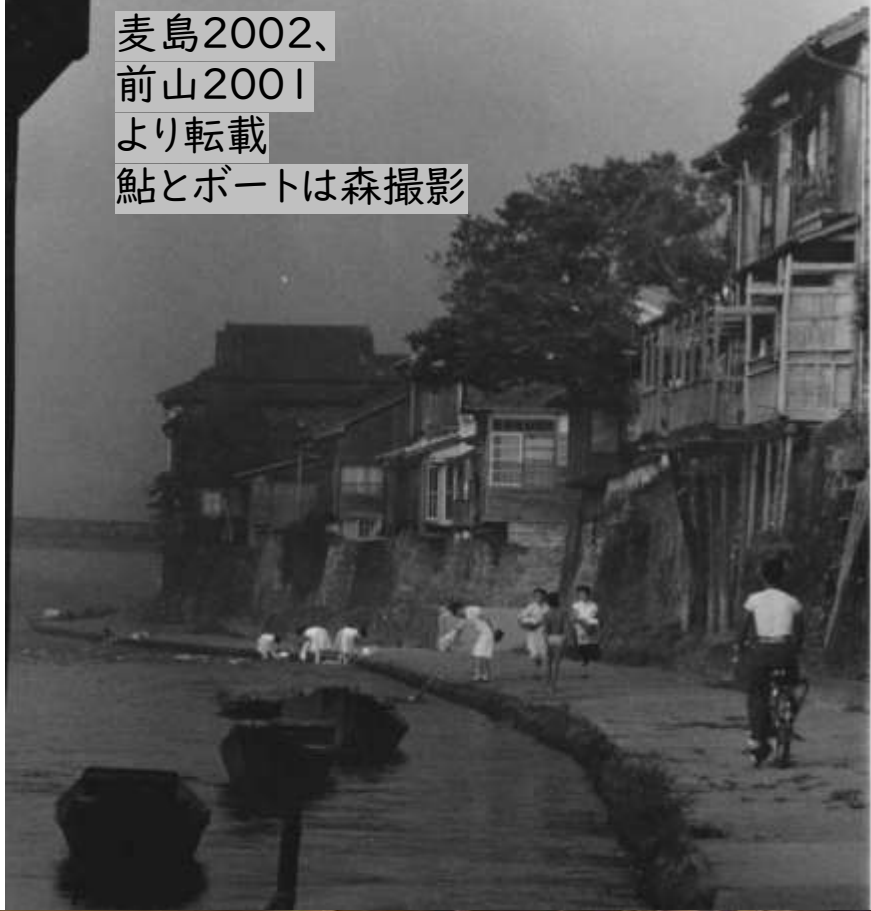
河川	市町村	被害状況		対応
		状態	件数	
百済木川	八代市	護岸損壊	137	応急
鶴喰川	八代市	護岸損壊	11	調査
走水川	八代市	護岸損壊	1	調査
中谷川	八代市	護岸損壊	1	調査
油谷川	八代市	護岸損壊	1	調査
市之俣川	八代市	護岸損壊	1	調査
吉尾川	芦北町	護岸損壊	35	応急
大尼田川	芦北町	護岸損壊	23	応急
天月川	芦北町	護岸損壊	13	応急
漆川内川	芦北町	護岸損壊	7	応急
告川	芦北町	護岸損壊	19	応急
鹿目川	人吉市	護岸損壊	8	対策
鳩胸川	人吉市	護岸損壊	11	対策
山田川	人吉市	護岸損壊	6	応急
永野川	人吉市	護岸損壊	9	対策
小纏川	人吉市他	護岸損壊	10	対策
万江川	山江村他	護岸損壊	19	応急
川辺川	相良村	護岸損壊	17	対策
野間川	錦町	護岸損壊	8	対策
水無川	錦町	護岸損壊	9	対策
免田川	あさぎり町	護岸損壊	7	応急
宮ヶ野川	多良木町	護岸損壊	12	対策
牛繰川	多良木町	護岸損壊	6	対策
小川	球磨村	護岸損壊	12	対策
川内川	球磨村	排水施設損壊	11	対策
中園川	球磨村	護岸損壊	6	対策

国交省「令和2年7月豪雨災害による被害状況等について(第



- 2020年7月4日未明に発生した線状降水帯は、球磨川の全流域に豪雨をもたらした。特に雨の集中した中流域や支流はほぼ全て崩れ、上流部の山からも大量の土砂や流木が流れ込み、被害を甚大化させた
- Cf. 日本各地で大雨、全国で死者82名、行方不明者4名、全半壊4,558棟、住家浸水13,934棟（国交省「令和2年7月豪雨による被害と対応」、2020.8.24）
- 球磨川流域で少なくとも約1,020ha・6,110戸の浸水被害。死者50名、2名が現在も行方不明（県災害対策本部会議資料）。49名が溺死（疑い含む）、1名が多発性外傷
- ピーク時には1,814戸・4,217名が仮設住宅等に入居。24年2月末現在、245戸・483名が仮住まい（熊本県健康福祉課）

麦島2002、
前山2001
より転載
鮎とボートは森撮影



暮らしの中に川があった。川は家事、生業、遊びの場、道だった



→熊本商科大学産業経営研究所、球磨川が人吉の地域経済に大きな影響を及ぼすと指摘（1983）

下流側から治水の河川整備が進む

昭和29年洪水以降、ダムと築堤・護岸等による水系一貫の管理

昭和40年水害を受け、川辺川ダム計画を発表

一方流域では…

「1965年の大水害で市房ダム管理の職員が『とんでもないことをした』と泣いて来た」

「水位の上がり方が今までと明らかに違った」

「1971年の水害で、台風の真っ只中のときに『ダムが危なだったので高台に逃げてください』と市街地を放送車が回った。守ってくれるのがダムなんじゃないのかとおかしいと思った。思い返せばいろいろおかしいことがあった」

熊本日日新聞 1966年7月14日



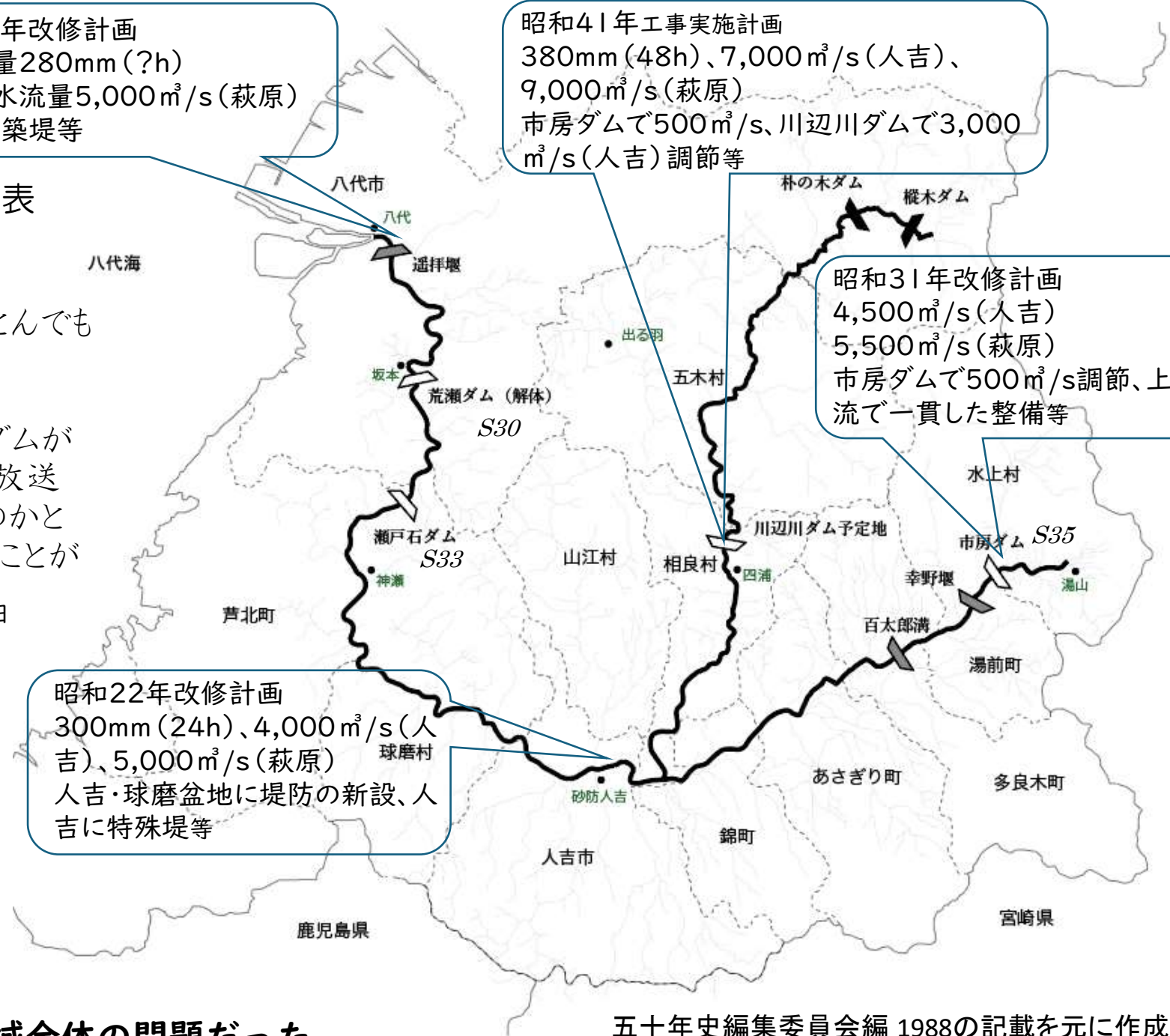
水没予定地のみならず、ダムは球磨川流域全体の問題だった

昭和12年改修計画
計画雨量280mm (?h)
計画高水流量5,000 m³/s (萩原)
- 拡幅、築堤等

昭和41年工事実施計画
380mm (48h)、7,000 m³/s (人吉)、
9,000 m³/s (萩原)
市房ダムで500 m³/s、川辺川ダムで3,000
m³/s (人吉) 調節等

昭和31年改修計画
4,500 m³/s (人吉)
5,500 m³/s (萩原)
市房ダムで500 m³/s 調節、上・下
流で一貫した整備等

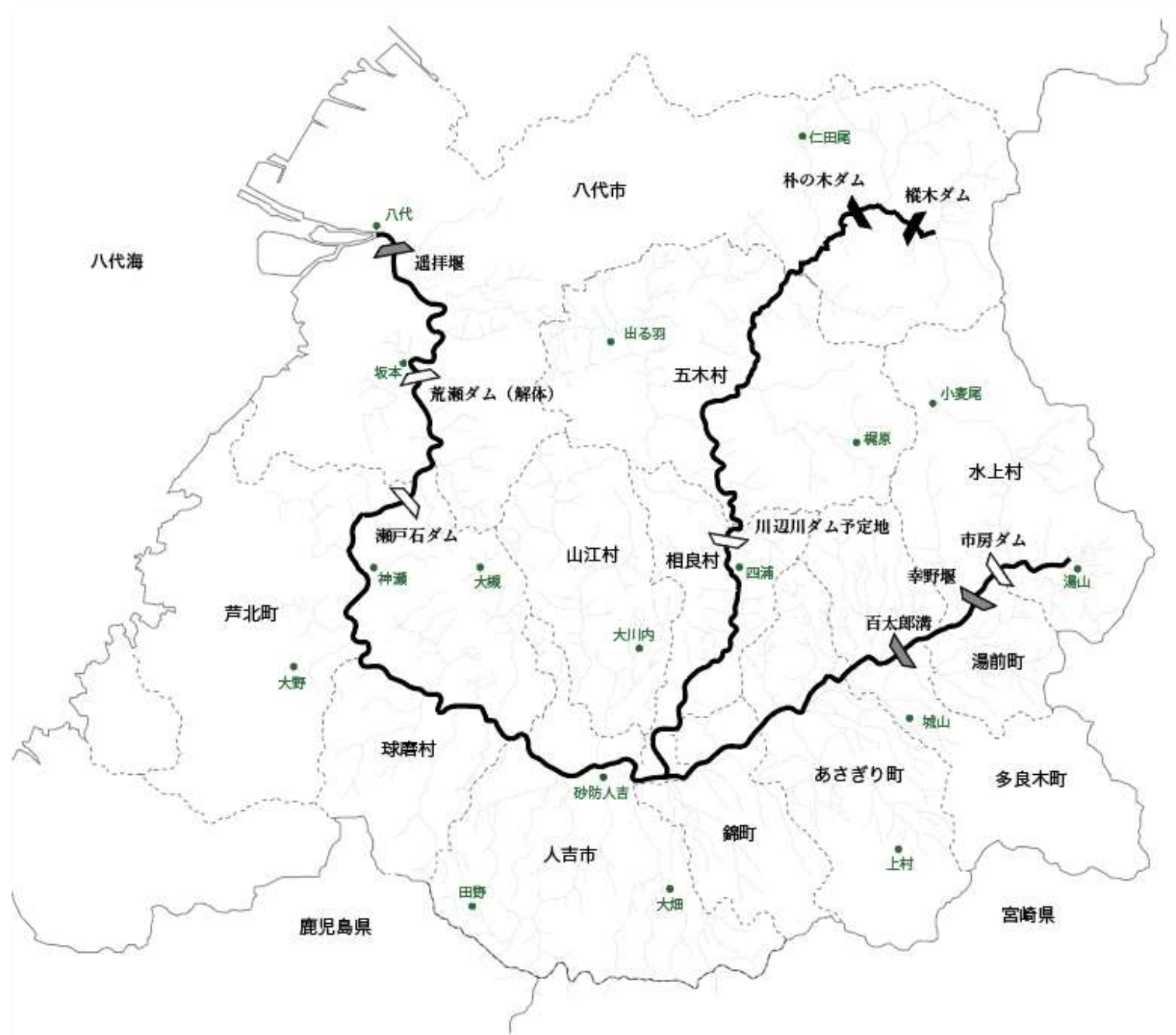
昭和22年改修計画
300mm (24h)、4,000 m³/s (人吉)、
5,000 m³/s (萩原)
人吉・球磨盆地に堤防の新設、人吉に特殊堤等



五十年史編集委員会編 1988の記載を元に作成

2020年7月熊本豪雨 球磨川流域各地点の雨量 (川の防災情報速報値)

観測地点	河川	累積雨量	9時間雨量
小麦尾	球磨川	396mm	275mm
湯山	球磨川	517mm	392mm
城山	柳橋川	436mm	327mm
上村	免田川	432mm	292mm
仁田尾	小原川	343mm	215mm
出る羽	五木小川	403mm	295mm
四浦	川辺川	462mm	344mm
大畑	鳩胸川	440mm	300mm
砂防人吉	胸川	502mm	357mm
田野	胸川	394mm*	196mm*
大川内	万江川	460mm*	370mm*
大野	球磨川	499mm	401mm
大槻	小川	495mm*	289mm*
神瀬	球磨川	564mm	465mm
坂本	球磨川	280mm	210mm
八代	球磨川	196mm	134mm



*7月平均降雨量は人吉地点で471.4mm/月 (表の*は欠測があった箇所)



「今回の豪雨災害を受けて、国及び流域市町村の皆様と、令和2年7月球磨川豪雨検証委員会を設置し、科学的そして客観的な検証に取り組み、10月6日の第2回検証委員会をもって必要な全ての項目を検証することができました」（20201119県議会）

- 「令和2年7月球磨川豪雨検証委員会」（国交省・熊本県）
- - 九地整局長、県知事、流域12市町村首長を委員として8/25に開始。第2回（10/6）で終了
- 今次洪水のピーク流量8,000+m³/s（人吉地点）と推定、川辺川ダムがあれば流量4割カット、浸水面積6割カットとシミュレーション… 計算の前提が不透明、洪水痕跡と不一致も
- - 何が被害を拡大させたのかの要因群やメカニズム解明に向けた議論は希薄
Ex. 山の皆伐・乱伐、既存ダムの影響は不問
- 2020年11月19日、流水型ダム建設を前提とした「緑の流域治水」を表明…「寝耳に水」
- - 「30回以上現地で声を聞き民意を探った」。一方で、被災者が声を届けづらく不十分との指摘も（熊本日日新聞世論調査20201229、森2021a）
- - 被災者の多様な声に応えない国・県。やむを得ず、被災者自ら市民調査に着手。Ex.手渡す会、300人以上の証言と約2,500の映像・画像を集め分析

川辺川ダム容認表明

熊本知事 豪雨被害受け転換

熊本県南部を中心とした7月の記録的豪雨で氾濫した球磨川の治水対策をめぐり、蒲島郁夫知事は19日、支流である川辺川への治水専用ダム建設を認める考えを県議会で表明した。川の水を流しながら洪水時だけ水をためる「流水型」ダムを国に求める。蒲島知事は2008年に川辺川ダム計画の「白紙撤回」を表明し、ダム以外の治水策を検討してきたが、多数の犠牲者が出た豪雨災害を受けて方針転換した。

▼2面▶ダムなし治水撤回 36面▶覆した豪雨

流水型「極限まで環境配慮」



川辺川ダム建設予定地=18日、熊本県、本社ヘリから、稲英治撮影

川辺川ダム計画

球磨川流域で1963年から3年続いた水害を受け、国が66年に計画を発表。総貯水量は1億300万立方メートル。治水のほか発電、農業利水も目的としていたが、2007年に利水事業が撤退。同年、電源開発が発電事業から撤退した。09年に旧民主党政権が中止を表明。当初350億円とされた総事業費は3300億円に膨らんでいた。

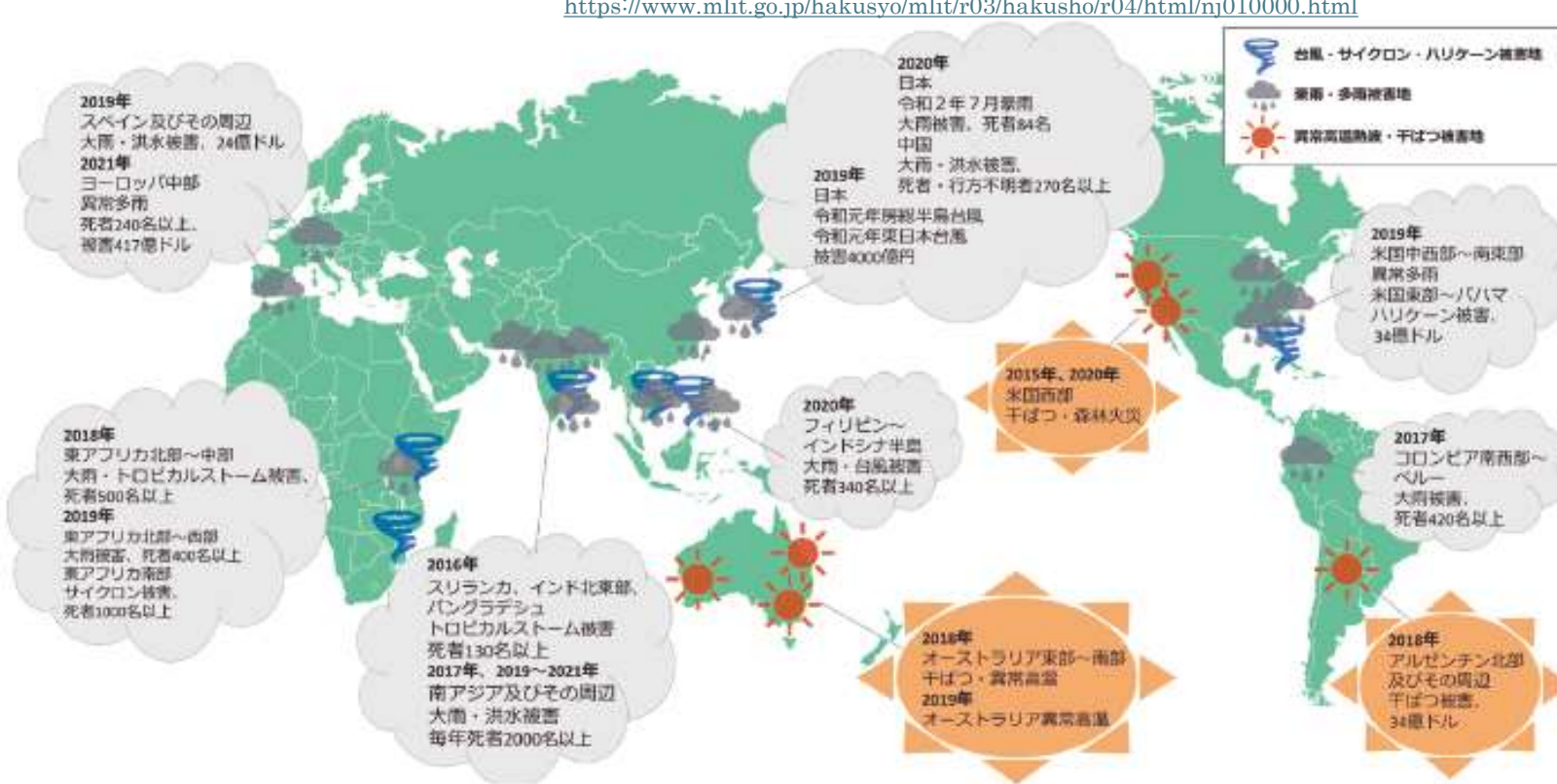


蒲島郁夫知事

蒲島知事は県議会委員協会で「住民の命を守り、地域に与える影響を軽減する新たな治水型ダムを国に求める」と述べた。現行の「貯留型」の川辺川ダム計画は廃止を要請する。20日に赤羽一嘉国土交通相と会談し、県の考えを伝える。

蒲島知事は、普段は川の流れを止めない流水型ダムについて、「環境に極限まで配慮することができ」と説明。清流として知られる川辺川へのダム建設が、環境に与える影響を懸念する住民の声も強いことを理由に挙げた。現行計画では実施されていない環境影響評価（環境アセスメント）も国に求める。ただ、この日はダムの規模や構造について具体的な説明はしなかった。





市民団体が県に共同検証を提案 球磨川洪水 第四橋梁の影響など

<https://www.asahi.com/articles/ASPC57288PC5TLVB006.html>

伊藤秀樹 2021年11月6日 9時30分

シェア ツイート B!ブックマーク スクラップ メール 印刷

list 0



昨年7月の豪雨の共同検証を県に申し入れる団体のメンバー＝2021年11月4日午後2時33分、熊本県庁、伊藤秀樹撮影

昨年7月の記録的豪雨による球磨川の洪水について、市民団体「清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会」など4団体は、熊本県に共同検証を提案した。県や国による検証では球磨川第四橋梁（きょうりょう）が災害へ与えた影響に一切触れていないと指摘している。

市民団体のメンバーらが4日、共同検証を求める文書を県に提出した。市民団体によると、昨年の豪雨では球磨川と支流川辺川の合流点付近にあるくま川鉄道の第四橋梁に流木などが大量に引っかかり、上流側はダムのようなになった。橋の流失とともにたまっていた水などが一挙に津波のように下流へ流れ、被害を拡大させたとしてい

- 1901年以降の統計で、200mm以上／日の大雨観測日数は約1.7倍増（01年からの30年と直近30年の比較）、50mm以上／時の短時間強雨発生頻度は約1.4倍増（76年からの10年と直近10年）。日本では気候変動の影響により雨の強度や頻度が変化し、水害・土砂災害等の気象災害をもたらす豪雨が増加。諸外国でも短時間強雨の頻度や干ばつリスクが増加し、被害が生じている（国交省白書2022）
- 「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」（IPCC）
- 災害、公害／環境問題、気候危機やその対策は、平時から弱い立場に置かれている主体により深刻な影響をもたらす。影響の不公平な配分を防ぎ、的確な実態解明を踏まえて立場に応じた責任を果たす／市民として適切な政策を具体的に求めるための知恵を、球磨川流域の市民調査とFridays For Future Tokyoの活動を通して、考えてみたい

【参考文献】

- 五十年史編集委員会編 1988 『五十年史』
- 嘉田由紀子編2021、『流域治水がひらく川と人との関係-2020年球磨川水害の経験に学ぶ-』農文協
- 川瀬宏明2021、『極端豪雨はなぜ毎年のように発生するのか』DOJIN選書
- 小出博1970、『日本の河川 - 自然史と社会史-』東京大学出版会
- 球磨川流域・住民聞き取り調査報告集編集委員会編 2008 『ダムは水害をひきおこす一球磨川・川辺 川の水害被害者は語る一』花伝社
- 熊本商科大学産業経営研究所1983、「球磨川が人吉地域経済に及ぼす影響についての調査報告書」、熊本商科大学産業経営研究所資料83
- 黒田弘行編2023、『球磨川流域における温暖化に伴う豪雨災害に関する調査報告～「7.4球磨川豪雨災害」を問う～』
- 前山光則監修 2001 『目で見ると球磨・人吉の100年—写真が語る激動のふるさと—』郷土出版社
- 森明香2018、「川の傍の暮らしを守るための川辺川ダム反対とは」『歴史評論』818
- ----2021a、「川辺川ダム建設容認をめぐる『現在の民意』は『より丁寧に』汲み取られたのか」、『くまがわ春秋』60
- ----2021b、「被災者らによる水害調査は何を明らかにしたか」、『くまがわ春秋』67
- 麦島勝・前山光則（解説）2002、『写真集 川の記憶—球磨川の五十年』葦書房
- 清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会2024、『球磨川流域豪雨災害とダム問題』すいれん舎（刊行予定）
- 国土交通省「令和2年7月豪雨による被害と対応」
https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/hazard_risk/dai05kai/dai05kai_sankosiry02.pdf
- 国土交通省白書（2022）、<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/r03/hakusho/r04/html/nj010000.html>
- 熊本県健康福祉課 「応急仮設住宅等の入居状況の推移」
<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/175337.pdf>
- 熊本日日新聞 <https://kumanichi.com/>
- 令和2年7月球磨川豪雨検証委員会 <http://www.qsr.mlit.go.jp/yatusiro/river/index/index.html>